

## 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

### 1. 学校概要

学校名 北海道キリスト教学園湖畔幼稚園 (※正式名称を記載)

種 別 ☒ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>

☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒085-0806

北海道釧路市武佐2-35-5

E-mail kohan@bz03.plala.or.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 67 女子 67 合計 134

幼児・児童・生徒の年齢 3～5

### 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

### 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度＋活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

(記入例)

当校は、「キリスト教保育」を根底の理念として、ESDを人格形成の基礎と捉え、ESDの実践を通して子どもたちの生きるの力の育成を目標とした。

具体的には、環境教育、国際理解、地域交流を柱に、例年継続して取り組んでいる。①栽培・飼育に係わる活動、②異文化に係わる教育、③地域交流に係わる学習、また、特に④木材に係わる学習を加えた。

#### ① 栽培・飼育に係わる活動

全園児による栽培活動は、年度はじめの花の植え付け、野菜や花の種まき等から始められ、成長の様子や世話を通して観察するとともに、秋の収穫時期には食物の恵みを皆で味わうことで大きな喜びを分かち合うことが出来る活動となった。草花の後始末も子どもたちとともにいき、飼育物の世話等を通じて、命の大切さや季節の移り変わり等を十分に感じる事ができた。また、地域の大学の畑での栽培活動において、学生との交流を深めることができた。

## ② 異文化に係わる教育

年間に渡り継続して取り組まれた『えいごあそび』は、アメリカ人英語講師による学びの時間となる。英語を覚えることにとらわれず、日本人以外の人に触れることより、自分たちとは違うところを発見すると同時に、親しみを持つことを通して、異文化に対しての理解を深めるものとなった。様々な人種や国、言葉や文化を知って、興味を持ち、世界の人々と共に生きることを学ぶ基礎づくりとなっている。

## ③ 地域交流に係わる学習

地域に住む方々との交流を大切にし、収穫物をプレゼントしたり、園の行事のチラシを配るなどの中で、挨拶することや言葉を交わすことの大切さが育つように取り組んだ。近隣の老健施設の方々との交流も継続され、年間を通して交わることができた。特に、同じユネスコスクール加盟校として、山花小中学校との交流を行うことができたことは、共に育ち合う仲間であることを知る上で、大きな成果となった。

## ④ 木材に係わる学習

栽培活動とともに、地域の製材工場を見学し、森の大切さや木に触れる経験を通し、普段の生活にある木製品への関心を深めた。木に触れて気持ち良いと感じることで、身の回りの自然を慈しむ心が培われている。また、近隣の製紙工場を見学し、家庭のごみが再生する様子を知り、生活の中でできるリサイクルについても考える良い機会となった。園で行っている収集活動にも関心が深まり、家庭での分別などの学習の機会となった。

保育の年間主題であったり聖書の言葉の中の『ぶどうの木』についても全学年での共同製作を行い、神様の愛が溢れる保育を行うことができた。



① 教育大学畑での種植え



② アメリカ人講師による英語あそび



③ 山花小中学校との交流



④ 全園児による共同製作ぶどうの木

### ① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

|   |   |  |                                   |
|---|---|--|-----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー                 | <input type="checkbox"/> 3. 防災                     | <input type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動          | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産           | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉         | <input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育        | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費            | <input type="checkbox"/> 12. 貧困   |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク        | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク                | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) |                                   |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等      | <input checked="" type="checkbox"/> 17. その他( )    |  |                                   |

|  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力             | <input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力          |
| <input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力         | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度   |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 |  |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )           |  |

|   |                                       |
|---|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. 教科の時間                 | <input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input type="checkbox"/> 3. 特別活動等                 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動     |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 ) |                                       |

|  |
|--|
|  |
|--|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールの活動は年間指導計画の中の主な活動の一つとして位置付け、その指導計画の吟味は前年度中から行われている。活動が平坦なものにならないように、また、その時の子どもたちの状況にあったものになるように配慮し、子どもたちが意欲的かつ自発的に取り組めるようにしている。ユネスコスクール加盟以来掲げてきたテーマは、環境教育・国際理解・地域交流の3本柱であるが、年毎にそれらの内容を精査しつつ、活動を広げていくことができた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクールの担当を定め、指導計画案の策定や提案を行い、活動内容を年毎に吟味。また、反省を行うことで、次年度での取り組みに生かすようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年度終わりの保護者に向けて配付されているアンケートにユネスコスクールの活動についての項目を設け、評価を受けている。加盟8年目となり、多岐にわたって活動が広がり、子どもたちの成長につながったことで高評価を受けている。また、幼稚園運営委員会による評価においても、様々なアドバイスを受けている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ホームページや保護者向けのお便りなどで、活動計画・活動内容、また、その様子を伝えている。各家庭で園での活動への理解を持つと共に、収集活動など、家庭の協力の中で行われている。子どもたちだけでなく、各家庭のユネスコスクールの活動への理解が深まっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域の大学や小学校と連携して、栽培活動や交流、協働を行うことができた。つながりが深まることで、次の活動への広がりが与えられている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクール加盟校としての交流を実現することができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

子どもたちが地域の人といっしょに活動しようとする意識が深まり、積極的に関わりを持とうとしている。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度は環境教育の中で特に“土”についての学び、身の回りの自然からいただいている恵みを発見する。具体的には、普段食べているお米の生育・世話を通して食物の大切さを実感できるように、お米のバケツ栽培を行う。また、それらから米を収穫し、もみ殻をとるなどして準備。ごはんとしていただくことで、食物を得ることの大変さを知ることができるようにする。

また、お米のバケツ栽培と並行して、陶芸用粘土を扱い、自分のひざに当てて成型して作る“ひざ椀”づくりを行い、その乾燥や上塗り等の作業を経て、出来上がった椀でごはんをいただくことで、土の恵みに気付く。